

7月6日

れ い
礼

は い
拝

ま ね
招きの言葉
こ と ば

かい かい の
開会の祈り

し ゆ い の 主の祈り

てん われ ちち
天にまします我らの父よ

ねが
願わくは

み な
御名をあがめさせたまえ

つづ
(続 く)

^み ^{くに} ^き
御国を来たらせたまえ

^み ^{こころ} ^{てん}
御心の天になるごとく

^ち
地にもなさせたまえ

つづ
(続 く)

われ にちよう かに
我らの日用の糧を

きよう あた
今日も与えたまえ

つつ
(続く)

われ つみ おか もの
我らに罪を犯す者を

われ ゆる
我らが赦すごとく

われ つみ ゆる
我らの罪をも赦したまえ

つづ
(続く)

われ ころ あ
我らを試みに遭わせず

あく すぐ いだ
悪より救い出したまえ

つづ
(続 く)

くに ちから さか
国と力と栄えとは

かぎ なんじ
限りなく汝のものなればなり

アーメン

つ み こ く は く
罪の告白の

か ん こ く
勧告

^{つ み}罪^{こ く は く}の告白^{き と う}の祈祷

^{ばん ぶ つ}万物^{つく}の造^{ぬ し}り主、

^{ひと}すべての人の

^{さ ば}裁^{ぬ し}き主^{か み}であられる神よ。^{つづ}(続 く)

わたし

私たちは、あなたの

せい

いまし

したが

聖なる戒めに従わず、

うしな

ひつじ

失われた羊のように

み まえ

まよ

い

御前から迷い出で、

つづ
(続く)

おも こと ば おこな
思いと言葉と行いにおいて

つみ おか み いか
罪を犯し、あなたの御怒りを

まね
招いたことを

ふかかな
深く悲しんでいます。

（つづ
続く）

あわ 憐れみに^と富^{ちち}んでおられる父よ。

おか つみ にく かな わたし
犯した罪を憎み悲しむ私たちに

あわ 憐れみを^{そそ}注いでください。 (^{つづ} 続 く)

^{しゅ}
主イエス・キリストにおいて

^{わたし} 私 ^{ゆる} たちを赦し、^{み たま} 御霊によって、

^う 生まれ ^か 変わらせ、

^{み な} 御名 ^{さか} の栄えのために

^い 生きる ^{もの} 者とならせてください。(^{つづ} 続 く)

^{しゅ}主イエス・キリストの^み御^な名に

よって^{いの}お祈りいたします。

アーメン

つ み ゆ る
罪の赦しの

せ ん げ ん
宣言

し へん か
詩編歌86

しゅ おお ふ し ぎ たも
4. 主は大いにして 不思議なし給う

しゅ かみ
主はただひとり 神にまします

あゆ しゅ おし
まことの歩みを 主よ教えたまえ

こころ おそ
心つくして 畏れまつらん。 (1/3)

しゆ めぐ ふか
5. 主は恵み深く

した よ み
下なる陰府より

わ たましい
我が 魂 を

たす いだ
助け出せり

たか もの
高ぶる者らは

われ さか
我に逆らいて

もの
あらぶる者は

かみ いな
神を否めり。

いか おそ めぐ ふか しゅ
6. 怒ること遅く 恵み深き主よ

み かお む あわ
御顔を向けて 憐れみたまえ

ちから めぐ
しもべに 力と 恵みのしるしを

あらわ たす か
顕し、助け 勝たしめたまえ。

(おわり)

ぼ っ か い き と う
牧会祈禱

こども^こ説教^{せつきょう}

きょうかい と も あゆ みち とい
「教会と共に歩む道」 問4

しんめい き しょう せつ
申命記5章 12～15節

カテキズム 問4

問4

^{かみ}神さまの^こ子どもとして^{あゆ}歩む^{せいかつ}生活で、
^{なに}だいじなことは何ですか。

こたえ
答

^{かみ}神さまが、ご^じ自^{ぶん}分の^こ子どもとして

あつ きょうかい せいかつ
集めてくださった 教会の生活を

たいせつ まいしゅうしゅ ひ
大切にすることです。毎週 主の日に

かみ れいはい しゅくふく
神さまを礼拝し、祝福をいただき、

せ かい おく だ
世界に送り出されて

かみ つか あゆ
神さまに仕えて歩むことです。

しんめいき しょう せつ
申命記5章12節

あんそくび まも せいべつ
12 安息日を守ってこれを聖別せよ。あ

かみ しゅ めい
なたの神、主が命じられたとおりに。

虹(にじ)

1. ^{にわ}庭のシャベルが ^{いちにちぬ}一日濡れて

^{あめ}雨があがって、くしゃみを^{ひと}一つ

^{くも}雲が^{なが}流れて ^{ひかり}光が^さ射して

^み見^あ上げてみれば (つづく)

ラララ ^{にじ}虹が^{にじ}虹が ^{そら}空にかかって

^{きみ}君の^{きみ}君の ^き気分も^{ぶん}は ^は晴れて

きっとあしたは ^{てん}いい^き天気

きっとあしたは ^{てん}いい^き天気 (1/3)

せんたくもの いちにち ぬ
2. 洗濯物が一日濡れて

かぜ ふ ひと
風に吹かれて、くしゃみを一つ

くも なが ひかり さ
雲が流れて 光が射して

み あ
見上げてみれば (つづく)

ラララ ^{にじ}虹が^{にじ}虹が ^{そら}空にかかって

^{きみ}君の^{きみ}君の ^き気分も^{ぶん}は ^は晴れて

きっとあしたは ^{てん}いい^き天気

きっとあしたは ^{てん}いい^き天気 (2/3)

3. あの子の遠足 一日延びて

なみだ かわいて、くしゃみを一つ

くも なが 雲が流れて ひかり さ 光が射して

み あ 見上げてみれば (つづく)

ラララ ^{にじ}虹が^{にじ}虹が ^{そら}空にかかって

^{きみ}君の^{きみ}君の ^き気分も^{ぶん}は ^は晴れて

きっとあしたは ^{てん}いい^き天気

きっとあしたは ^{てん}いい^き天気 (おわり)

かいかく は きょうかいそうりつ しゅうねん き ねんせんげん
改革派 教会創立40周年記念宣言

せいれい
聖霊について

きゅうやく じ だい しんやく じ だい せいれい はたら
旧約時代と新約時代の聖霊の働き

きゅうやく じ だい やくそく
旧約時代には、約束のメシヤへの
しんこう せんみん おし そだ
信仰に選民を教え育て、

つみ えいえん すく
罪のゆるしと永遠の救いを

え
得させるために、

せいれい よ げん ぎ せい かつれい
聖霊は、預言、犠牲、割礼、

すぎこし こ ひつじなど
過越の小羊等の

よ けい き てい ゆうこう もち
予型や規定を有効に用いられた。

とき み かみ えいえん こ
時満ちて、神の永遠のみ子でありつつ、

ひと しゅ
まことのひととなられた主キリストは

よ きた せいれい しょゆう
世に來り、聖靈を所有し

せいれい つか かた
また聖靈を遣わす方となられた。

ひ せいれい
ペンテコステの日に聖靈は、

きゆうやく よ げん しゅ
旧約の預言、および主イエス・キリス

やくそく したが きようかい そそ
トの約束に従って教会に注がれた。

きようかい せいれい み
それによって教会は聖霊に満たされ、

せいれい みや いた
聖霊の宮とされるに至った。

せいれい よ げんしや
聖霊によって、預言者たちは

かみ こと ば かた うご
神の言葉を語れるように動かされ、

せいしよ き しゃ
すべての聖書記者たちは、

かみ ところ むね
神のみ心とみ旨とを

あやま れいかん
誤りなくするすように靈感された。

ふくいん ていきよう はたら
福音を提供する働きは、

とく せいれい ゆだ
特に聖霊に委ねられている。

せいれい ふくいん みち じゅん び
聖霊は福音への道を準備し、

せつとくりよく ふくいん ともな
その説得力を福音に伴わせ、

し しん にんげん り せい りようしん
またその使信を人間の理性と良心に

たい と すす
対して説き勧められるのである。

(おわり)

し と げん こう ろ く し ょ う
使徒言行録2章

ご し ゅ ん さ い ひ き
1 五旬祭の日が来て、

い ち どう ひ と あ つ
一同が一つになって集まっていると、

と つ ぜん は げ か ぜ ふ
2 突然、激しい風が吹いて

く お と て ん き
来るような音が天から聞こえ、

か れ す わ い え じ ゅ う ひ び
彼らが座っていた家中に響いた。

3 そして、^{ほのお}炎 ^{した}のような舌が
^わ分かれ^わ分かれに ^{あらわ}現れ、
^{ひとり}一人^{ひとり}一人の^{うえ}上にとどまった。

4 すると、一同は^{いちどう}聖霊^{せいれい}に^み満たされ、

^{れい}“霊”^{かた}が語らせるままに、

^{くに}ほかの^{くに}国々の^{こと}言葉^ばで^{はな}話^{はな}し^{はな}だした。(おわり)

179. よろこびあふるる

1. ^{よろこ}喜^{いのち}び^{いずみ}あふるる 命の泉

^{むね}くもれる胸をも ^{ひかり}てらす光よ

^{とき}うれしき時に ^{かな}悲しきおりに

^{うた}ささぐる歌を ^う受け^い入れたまえ

めぐ まこと み たま
2. 恵みと真に みる御霊よ、

まず こ や
貧しき小屋にも、 たまのとのにも、

いの つみ
祈れば罪も けがれもきよめ

みや い す
宮居となして 住まわせたまえ。

3. ともにしいまさば はなれ小^{お しま}島も、

あめなる御^{み くに}国の ^{ここ ち}心地こそせめ、

あふれる恵^{めぐ}み ^{つね}常にくみつつ、

たえせぬ ^{ひかり}光 とわにうけつつ。

アーメン

せつ
説

きょう
教

せいれい こうりん
「聖霊の降臨」

つじ
辻

ゆきひろ
幸宏

ぼくし
牧師

主イエスの昇天の後

- 心を合わせて熱心に祈った(1:14)
- 120人程の人々、一つになっていた
(1:15)

→ 危機意識の表れ

危機意識

- ・主イエスがおられなくなった
 - ・使徒が1名欠けていた

→ 使徒にマティアが選出された

→ 聖霊が与えられることを待つ

五旬祭 50日目の祭り・七週祭

(出エ34:22、申16:10)

- ・大麦の初穂の束をささげる日から
数えて50日目(レビ23:15)
- ・「刈り入れの祭り」、「初物の日」
- ・過越祭、仮庵祭と共に三大祭(申16:16)

旧約に生きる人々

- 主イエスの十字架を境に新約となる
 - 人々の生活は、旧約の社会
 - 五旬祭のため、人々が集う

主イエスの弟子たち

- ・一つとなって集まっていた
- ・教会が一つとなることは容易くない
 - 聖霊が下ることを切望していた

聖霊の降臨 (2～4節)

- ・聖霊が宿ったことを実感する

→ 喜びに溢れ、聖霊に満たされ行動する

→ 聖霊降臨は1回限りのこと

今に生きる私たち

- ・ペンテコステ（聖霊降臨節）を覚える
 - ・聖霊の働きを感じられない
 - ・同じようなことがあれば……

聖霊の宮としての教会

- ・40周年宣言「聖霊について」
- ・聖霊：旧約の時代に、また主イエス・キリストと共に働いた
 - 聖霊は常に宿っておられる

聖霊は特に御言葉と共に

- 説教者は、聖霊が宿るからこそ説教できる
- 御言葉と格闘し、聖霊の導きに委ねる
 - 説教は神の御言葉である！

神の御言葉

- ・ 2000年前に記された
- ・ 聖霊により、今に生きる私たちに語りかけておられる
- 今の社会の現実には照らして、聞き取ることが求められる

聖霊は一人ひとりに働く

- 聖霊はいつでもどこでもおられる
→ 祈り
- 聖霊をとおして、私たちはいつも
主イエス、父なる神と共にいる

一つとなること

・「神の国」の完成 聖餐式

・神の子とされ、
永遠の生命が約束されている

→ ここに希望があり、喜びの人生がある

一つとなること

- ・教会において：世代間ギャップ
 - ・中会・大会において：ビジョンの共有
- 私たちが一つとなることにより、
そこに聖霊が豊かに働く

185. きよき御^{み たま}霊よ

1. きよき御^{み たま}霊よ、 お^{ぐら}暗^{こころ}き心

て ^{たま}照らし給えや、 御^{み ひかり}光^もを持て

2. きよき御^{み たま}霊よ、 内^{うち}なる罪^{つみ}を

きよめ給^{たま}えや、 御^み力^{ちから}を持^もて。

3. きよき^{み たま}御霊よ、 このうき^み身にも、

み^{たま}たし給えや、 あまつ^{よろこ}喜び。

4. ^{み たま}御霊よ、たえず ^{こころ}心 ^すに住みて、

おさめ^{たま}給えや、 ^{のこ}残るくまなく。

アーメン

せい
聖

さん
餐

しき
式

205. わが^{しゅ}主よ　　^{いま}今ここにて

1. わが^{しゅ}主よ　　^{いま}今ここにて

したくまみえまつり、

かぎりなき^{さいわ}幸いを

うくるこそうれしけれ

アーメン

けん
献

きん
金

かんしゃ ささ もの
感謝の献げ物

にん い きようせい
任意であり、強制ではありません

ほう
報

こく
告

本日の予定

- 教会学校（礼拝後）
- 定期小会・合同役員会（pm1:30～）
- 夕拝 pm5:00～

今週の予定

- 祈りと学びの会（祈祷会）午前・夜
7月9日（水） 奨励：辻幸宏牧師
- 会堂掃除 第2週担当者

次主日の予定

・礼拝 am10:30

司式・説教：辻幸宏牧師

奏楽：鈴木美登里姉

「聖霊に満たされて生きる」 使徒2:5～13

・教会学校（礼拝後）

・グループ別祈禱会（休会）

・夕拝 pm5:00～

541. ^{しょう}頌 ^{えい}栄

^{ちち}父、^{みこ}御子、みたまの

おおみかみに、

ときわにたえせず、

みさかえあれ、みさかえあれ

アーメン

しゅく
祝

ふく
福

ア-メンさんしょう
三唱